

栃木県立がんセンター研究所 研究集談会(第1回) 開催

栃木県立がんセンター研究所では、臨床医をはじめとする研究者らが、日々、基礎研究を重ねて見つけ出した新しい医療の種(シーズ)を、実際の医療機関等で使える新しい医療技術・医薬品として実用化するトランスレーショナル・リサーチの実践に向け、非臨床から臨床開発までの幅広い研究を進めており、この度、日頃の研究成果を発表する研究集談会を開催しました。

栃木県立がんセンター研究所では、がん専門病院としてがん克服に向けた研究(臨床と基礎研究の架け橋となるトランスレーショナル・リサーチ)を積極的に進めて参ります。今後も栃木県立がんセンター研究所の活動にご期待下さい。



(40 名以上の方に出席いただきました)

◆◆◆当日のプログラム◆◆◆

開催日:2026 年 6 月 18 日

◆研究演題◆

◇医療シーズプロジェクト

林 雅人 「胃癌の生検検体でやっていること」

◇分子病理分野

山崎 剣 「DNA メチル化に基づく肝細胞癌の分類」

阿部 信 「高分化脂肪肉腫の脱分化に関与する分子機構の解明と新規病理診断基準の確立」

林先生からはオルガノイド(小宇宙)作成について、並びにオルガノイドを利用することで、抗がん剤の効果の上乗せや、どの抗がん剤が患者に最も効果があるのか等、今後の臨床に活かせる内容の発表をしていただきました。

山崎先生からは高価な遺伝子解析をせずとも、日常の画像検査や一般的な病理組織染色だけで癌を5タイプに分類し、患者に最適な個別化医療の実現へ向けた、臨床に直結する次世代の診断アプローチについて大変興味のある発表をしていただきました。

阿部先生からは、これまでの研究集談会や昨年の日本癌学会での発表内容を踏まえ、その成果を取りまとめたものを発表していただきました。本研究は論文化され、インパクトファクター3.4 の学術誌「Pathology International」にオープンアクセスとして採択されております。

栃木県立がんセンター研究所では、栃木県内および全国のアカデミアや企業との共同研究体制を強化し、栃木県で唯一の栃木キャンサーバイオバンクを有している強みを最大限に発揮したがん克服に向けた研究(トランスレーショナル・リサーチ)を進めております。



※共同研究にご興味があれば HP お問い合わせフォームよりご相談ください。